

令和5年度入学式学長式辞

「あなたの名前はなんですか？自分自身を語ってください。」

新入生のみなさん、ご家族のみなさま、ご入学おめでとうございます。学校法人旭学園、佐賀女子短期大学を代表して、心よりお祝い申し上げます。地元佐賀をはじめ長崎、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島、九州すべての県から、そして、沖縄、鳥取、広島、さらに京都からの新入生のみなさんを歓迎します。

韓国からの10名の留学生のみなさん。한국 학생 안녕하십니까? 여러분 진심으로 환영합니다! みなさんを歓迎します。

ミンガラーパ！ノモスカール！今それぞれの国で、日本への旅立ちを目の前にしているミャンマー、ネパールの留学生のみなさん、こんにちは！キャンパスで、みなさんと会える時を楽しみにしています。

私たち佐賀女子短期大学は、三百数十名の小さな地方大学ですが、日本各地から、そして海外各国から、学生が集う大学です。留学生数は日本語別科の学生を含め91名、その多くが進路として介護福祉士をめざし、日本の福祉を支えるために学んでいます。

佐賀女子短期大学は、人とともに生きる力を育てる多文化共生の大学です。

「みなさんに聞きたいのです。あなたの名前は何ですか？何にワクワクして、何に心が高鳴るのか。あなたのストーリーを聞かせてください。あなたの声を聞きたい。あなたが誰なのか、どこから来たのか、肌の色やジェンダー意識は関係ありません。ただ、あなたのことを話してください。話すことで、自分の名前と声を見つけてください。」

この言葉は、K-POPグループ、BTSのキム・ナムジュンさんが、2018年、国連総会で、世界の若者たちに向けて行ったスピーチの一節です。BTSは、「ラブ マイセルフ（まずは私自身を愛そう）」など、若者に対して、希望のメッセージを発信し続けていますね。

ではまず私から。今村正治です。64年前に大阪市に生まれてから、京都市、大分県別府市、東京都で暮らし、昨年、佐賀市に住み、ここ佐賀女子短期大学の学長をしています。若い頃から、特に人生の夢や目標があったわけではなく、それぞれの場所で出会った人たちと新しいこと、面白いことに取り組んだり、真剣な頼みごとや相談を解決するためにアイデアをめぐらしたりしてきました。結局、大学などの教育分野でキャリアの大半を過ごしてきたことになります。もちろん、たくさんの失敗をしてきました。自分だけでは到底できそうにもないことでも、やってみようとするすぐに行動を始めるタイプで、迷惑をかけたことも多く、これまでの道のりを振り返れば、たくさんの反省と後悔が山積みになっています。今でも、私は多くの欠点を持っています。それでも、友人や仲間にも恵まれました。素敵なチームで、やりがいのある仕事ことができました。本と映画、音楽と旅、料理とお酒が大好きで、私の人生を励まし、癒し、慰め、豊かにしてくれました。

そして今、学長という思いもかけなかった役割を与えられ、みなさんと出会うことになりました。みなさん、どうかよろしく申し上げます。

さあ、今日から大学生となったみなさんも、ぜひ、たくさんの様々な学生、教職員と対話してください。

さて、今の世界や日本について、みなさんはどう思いますか？デジタル革命とか、100年長寿社会とか、時代が大きく変化していることは感じませんか？また、もう一年以上も続いているロシア

のウクライナ侵略を始めとして絶えることのない国際紛争、みなさんの高校生活に暗い影を落としたコロナウイルスのようなパンデミック、地球環境問題、そして、日本の人口減少、少子高齢化、物価の上昇など、今から未来へと続いていく社会は、若者にとって、とりわけ女性にとって、生きやすい時代とはいえないでしょう。いやそんなマクロなことではなく、もしかしたら高校生の頃から、経済的問題への不安、就職への怖れ、人間関係の悩みなどを抱えてきた新入生もいるでしょう。でも、それは何もあなたひとりだけのことではありません。多くの若者の問題なのです。でも、あきらめてはいけません。自信を失ってしまう前に、自分を理解し、自分の価値を知る必要があります。

だからこそ、大学での学びが必要なのです。確かに、短期大学は、知識や技能を身につけ資格を得るということに多くの時間を必要としますが、学びの意義はそれだけでなく、変化に対応する社会のシステム、人間らしい新しい生き方について考える貴重な機会でもあります。そして、大学生活を通して、生涯において学び続けることを習慣にする、将来に度々起きるであろう変化に対応するための学び方を身につけることができれば、みなさんは、ずっと自分に寄り添ってくれるもうひとりの自分、頼りになる人生の伴走者を持つことになるでしょう。

今年の2月15日、旭学園・佐賀女子短期大学は、武雄市と共同して、4年制新大学を最短で2025年に開学するという構想を発表しました。発表後、さまざまな反響がありました。なかには、「どうせ」地方の女子短期大学に4年制大学をつくるなんてできっこない、失敗するに決まっているという声もありました。確かに、簡単なことではありません、成功する保証なんてない、大きなチャレンジであることは、何より私たち自身が実感していることです。でも「どうせ」と言っているだけでは、大学進学者の80%が佐賀県外に出なければならない状況、全国でも最低水準の佐賀県の大学進学率も変わりません。そして短期大学も少子化と人口減少の渦の中に、消えていくかも知れない。そんなことになってはいけなないと考えたのです。

「どうせ」というあきらめではなく、「もっと」です。「もっと」という、未来に希望を見出す行動に出ることにしたのです。

地域、国籍、年齢、性別を超えて、もっとたくさんで多様な学生が学べる大学を！

佐賀の学生が県外に出なくても学べるもっとたくさんさんの大学を！

そのために、もっとたくさんさんの先生、もっと面白い授業を！

もっと素晴らしい環境のキャンパスを！

「どうせ」から「もっと」へ。その想いを込めた構想が、4年制大学と短期大学を併せ持つ、私たちの新大学なのです。

大学で学ぶということは、自分を中心に考えることです。「先生が」ではなく、「大学が」でもなく、「私は」から考え、話すことです。教えてもらうという受身的姿勢を、自分から学びたいことを学ぶ、やりたいことをやるという姿勢に変えましょう。

佐賀女子短期大学を、学生と教職員が、混ざり合い、つながり合い、対話し合い、学び合う、もっと、騒々しいキャンパスにしましょう。今日からみなさんも私たちのメンバーです。

あなたの名前はなんですか？自分自身を語ってください。

入学おめでとうございます。

令和5年・2023年4月2日

佐賀女子短期大学 学長 今村 正治